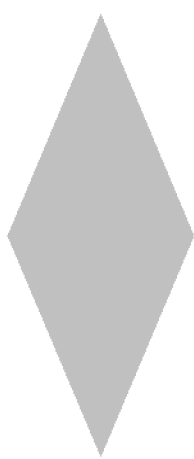


同じ過ちを再び繰り返さないために…

南京大虐殺・百人斬り競争事件



# 史実を守るために ご協力を！

## ▼言論の自由の問題です。

今から約70年前、当時の中国の首都であった南京を攻略する日本軍の二人の将校が、「どちらが先に100人を殺せるか」という殺害競争を始めたことにさかのぼります。当時はそれは美談となった異常な社会でした。

この事件を戦後になって発掘したジャーナリストの本多勝一さんと、それを報じた朝日新聞社などが、過去の史実を否定したい人々によって狙い撃ちにされ、二人の将校と遺族に対する「名誉毀損」だとして提訴されました。

地裁では史実を守る側が完全に勝利しましたが、殺人競争を否定し、あわよくば南京大虐殺事件や日本の中国侵略そのものも否定したい人々は控訴、東京高裁で審理が始まります。

歴史的な事実に論及することが「名誉毀損」とされ、史実に基づいて論評することが規制されるようなことがあってはいけません。

ぜひ皆様のご理解と支援をお願いします！

## ▼もはや真実は明らかです。

地裁での審理を通じて、史実を明らかにする新資料が続々と発掘されました。1937年の南京で、非人道的な虐殺行為が行なわれたことは、残念なことに、もはや明らかです。

…この人が百人斬りの勇士とさわがれ、内地の新聞、ラジオニュースで賞賛され一躍有名になった人である。

「おい望月あこにいる支那人をつれてこい」命令のままに支那人をひっぱって来た。助けてくれと哀願するが、やがてあきらめて前に座る。少尉の振り上げた軍刀を背にしてふり返り、憎しみ丸だしの笑ひをこめて、軍刀をにらみつける。

一刀のもとに首がとんで胴体が、がっくりと前に倒れる。首からふき出した血の勢で小石がころころと動いている。目をそむけたい気持も、少尉の手前じつとこらえる。戦友の死を目の前で見、幾多の屍を越えてきた私ではあったが、抵抗なき農民を何んの理由もなく血祭にあげる行為はどうしても納得出来なかった。その行為は、支那人を見つければ、向井少尉とうばい合ひする程、エスカレートしてきた。両少尉は涙を流して助けを求める農民を無残にも切り捨てた。

望月五三郎「私の支那事変」（私家版）より

# 2/22

**史実を守る会結成！**

結成総会にご参加を！

詳細は裏面参照



「南京への道」・史実を守る会

FAX 020-4624-2381

WEB <http://www.jijitu.com/>

MAIL [honda\\_sien-owner@egroups.co.jp](mailto:honda_sien-owner@egroups.co.jp)